バストス週報

Nº 318 BASTOS, 13 de MAIO de 1956 O PROGRESSISTA REG. N. 4576 N. 2695 SÃO PAULO A. P

第三百十八号
昭和廿一年
五月十三日
発行

DIRETOR
KOITI MORI

REDATOR
SHION ODA

RUA PRES VARGAS 188
C. P 112

BASTOS
C. P

誌代
一ヶ年
80$—

色氣より食氣

コチア獨身青年たちの座談會 1.

〔前書〕

コチア産組下元氏の構想による独身移民も今日迄に数百名渡伯し、聖市近郊をはじめ奥地へも送られて来たが、大体好成績を收めて所期の目的を達して居るようで慶賀に堪えない。バストスへも六人程配屬せられ、まだ〳〵引受希望者もあるようだから、やがて十人廿人と増加することであろう。彼等青年は、どんな氣持で故山をあとに渡伯して来たであろう、来て見て失望しなかったか、どんな夢を描いて働いて居るだろうか、平凡なようだが時にそんな考えの浮ぶのも吉つわものの感慨であろう。青年時代に渡伯した吉つわものも二十年三十年苦闘をつづけ頭髪に霜く年になって見ると、再び渡伯の道が拓けて續々とやってくる青年の姿に昔の己の影を見出して、云い知れぬなつかしさを感ずるのである。

二十年三十年とブラジルで暮している と所謂マカコ、ヴェーリヨになる。よい意味にも悪い意味にもマカコ、ヴェーリヨである。自分には気がつかないでも尻にも背にも苔が生え、躰全身から發散するカビ嗅さきをいかんともすることが出来ない。しかしその苔のおかげ、カビのお蔭で古つわものは大きな顔をしてブラジルに蟠居できるのである。そこで新鮮な感覚をもつ青年〔新来の〕の話もきき、われらの苦闘をも語りきかせて開拓の容易ならぬことに更に決心を新たにさせなくてはならぬと考えるのである。

コチア系の新来青年を集めて座談会をやろうという案は、彼らの引受人の一人森元氏で、次々と引受人の賛成を得て五月一日その実現を見ることとなった

〔顔振〕

岡田君　山梨県　廿一才　引受A木内氏
相岡君　熊本県　廿一才　〃E森元氏
佐藤君　熊本県　廿五才　〃P新家氏
平木君　鳥取県　十八才　〃S岡野氏
鼎居君　愛知県　廿三才　〃〃
中村君　山口県　廿六才　〃C青山氏

司「やア今日は！皆さん遠方の処ご苦労さまでした。挨拶ぬきにして、ざっくばらんということにしましょう」皆上衣を脱ぐ

岡「僕は上衣も着てこなかった。僕の所はアルモッサいつも早とれよ。僕の所はアルモッサいつも早いんで、はらぺこだよ、失礼します」

司「青年に酒をすすめてはよくないが、ビールの一杯位！さア乾盃！何だ岡田君もうのまんの？」

岡「最初の一ぱい、とてもおいしんですが二杯は駄目です。鳥居君は中々いける人です。僕はガラナ」

○「鳥居君遠慮するな、ビールは酒の中に入らん相だよ」

鳥「僕を酒呑扱いにするなよ」

司「中々話せるじゃないか。大体戦後の

Relojoaria Confiança Tupã AV. TAMOIOS

時計のお求めならツパン一と信用ある中村時計店へ
指輪宝石入御婦人嗜身具いろ〳〵
其の他楽器類
ツパンにおいでの節はお立ちよりお休み下さい

ツパン市 ジャジネーロ ポント前
中村時計店

Alfaiataria Imperial
マルヤマの服はダンゼン光る
タテカラ見テモ
ヨコカラ見テモ

アブレ、失礼、戦後の青年はデンキブランで飯えているから相当強いとはきいていたが

島「そりゃア呑人平も居りますが、第一経済がゆるさんですよ、僕などビールなら一本です」

△「遠慮はいらんよ

司「たべ物の話から始めますかね、どうですブラジル食は？」

佐藤「僕はカルネセツカは好物です」

司「こりゃア本物だ、では心配ないね、平木君どうです」

平「僕は何でも食べます、油こい物がいいです」

岡田「僕は、始めから、ムジョン油飯何でもぺりました、嫌いなものなしです」

島居「僕はチーズ（ケージョ）がだめなんだ。あの大きな腸詰ね（モルタディラ）あれも駄目なんだ、どうもすきになれん」

松岡「何でも食べます」

司「バストスは日本人集団地と言われているから、ブラジル食といっても日伯折衷ですよ。まァサシミが食いたい、ナマコが食いたいなどと言わずトリやボルコでがまんするんですな。森林伐採時代はどうしてもカルネセツカが必要で、生肉など中々手に入らないしね、ムジョン油飯干肉で押通したもんですよ。どうです、食生活での感想は」

○「何も望むところはありません」

△「日本の農村に比べて、大へんよいと思います」

□「食氣満点です、うまいもの腹一ぱい食べて仂けば僕満足です」

打見たところ、何れも健康そうな血色をしている、ついでに健康診断をして見よう、岡田君身長体重は？

中村君	一米五三	六七キロ	五二キロ
松岡君 〃	一米六一	五四キロ	五四キロ
佐藤君 〃	一米六二	五三キロ	五三キロ
島居君 〃	一米五七	五七キロ	五七キロ
平木君 〃	一米五四	五〇キロ	五〇キロ

彼等の年齢から云っても食氣盛りで日本戦後の風紀頽廢時代には少年であったろうから「色気御難」には被害を受けて居るまい。

農村事情には職業的にも経済的にも直面して居り、何とかして自己の生活を更新したい氣持で一ぱいだったから、桃色遊戯どころか常に思いは海外進出の機を狙って居たいはゞ小英雄的性格の持主である。思想的にも極く円満であるように見えるのは、彼らが都会の職場に居なかったため階級闘争とか労資問題の洗礼を受けていない為めだと思はれる

次に渡伯の動機、その他について尋ねて見よう

渡伯の動機

司「平凡な質問だが、何か面白い話を織りませて順に話して下さい」

岡「僕がブラジルに渡りたいと考えたのは十八オの時でした、しかし獨身者では渡航の方法がないので、煩悶している時下元先生の話をきいてチャンス到来と、実に嬉しかったです。僕の家は甲府から一里半ばかりの富士山麓ですが、そこに米人のポールラッシュ氏が八ヶ嶽山麓農村センターを作り青年を指導していましたが、そこに一年講習生として入所し牧畜其他の事を習っている時でした。渡伯の夢が実現されると、そればかりが当時の乳持ちで、動機というより待ち構えて居た処でした」

鳥「僕は愛知県蒲郡で新制中学は出たが仕事はなし、やはりブラジルに行き度いと考えて居る矢先でした、家は農業ですが、某家の二三男は家に居ても出地入手の見込はなく、都会といっても豊橋市へも出て見ましたが就職困難です、そういう時下元さんの話が出て、さっそく試験を受けに行きました」

中「私は山口県ひかり（光）という元の海軍港で指物職でした、家は農家ですが自分が百姓をやってくいたのではありません、農家の二三男といっても大抵

NOSSA Relojoaria
AV. Tamoios 785 Tupã
J. Sabongi & Cia Ltda
ツパン第一のトケイ店
時計
貴金属
指輪
アリアンサ
万年筆
修理一切
信用第一
ノッサ・トケイ店

Sapataria Hayakawa
たとえばワシらが、クツをはくとすればどんなモーダが似合いましょうな？
クツのことならハヤカワへ！
ハイヒールではおかしいしハテ？
早川靴店

家で百姓やっていたい、それぐ他に生活の道を求めています」

司「戦時中のことを少し……」

中「少年航空隊に居りました、十五歳でした」

司「行く行くは牧攻隊になるのですか、その航空隊は？　どこです？」

中「防府でした、僕の記憶では少年航空隊といっても、学科を習うだけで実際には役に立たんようです、入隊して三ケ月ばかりすると終戦になってしまいました」

司「それは惜しいことをした」

中「それから指物師になり、方々渡り歩き歩きました」（註、青山氏の話によると非常な働き手で、日曜も祭日も働いて定給外に金を得、一日も早く渡航費を返却したいといって居る、國では立派に指物大工として職人を使い営業していたこともあるという、渡り歩きである）

相岡「こちらへ来る前は保安隊に居りました、福岡県針尾に始く、のちに愛知県豊川へかわり一年半で除隊になりました」

司「やめたのですか、わん出された？」

相「恰度保安隊が警備隊に切り替わる時で、止めるのに恰度よかった、日本ではとても願をよびる機会がないのでかねて希望していたブラジル渡航の決心がつきました」

司「保安隊では、どの位支給されていたんですか」

相「僕は一査（一等兵）で七千円もらっていました、被服食事は勿論国家もちです」

司「衣食住が保証されて、七千円もらえは悪くないじゃないですか」

△「コチアのケースで渡伯した独身青年の一人々々について調べても、食うに困って渡伯を決心したというのは一人もないでしょう」

○「親の家の仕事を手伝うなり又は他に仕事をしているのでも、結局将来のことを考えると、広大なブラジルにとび出してという気になるのです」

司「平木さんの場合は？」

平「僕は島取の中学を出て約三年大工をやりました、手に職をもつ事は大切ですが、しかし今日の日本は人口過剰の為め手に職のある者も仕事にあぶれる事が多いので、一つのびゝとしたブラジルへ行き度いと考えて居りました、西尾知事がブラジルから帰ってからブラジル熱は、私の県ではぱっと火の手があがった程でした、西尾知事は一昨年の選挙では落ちましたが、ブラジル移民に対する県の態度は、ずっと改善された相です」

渡伯試験に合格

司「渡伯の動機は、今のお話しでは、浮気娘の一寸惚れでなしに、相当計画的に渡伯の機会を狙っていたわけですね、処で下元さんの独身青年渡伯の道がひらけて、試験も無論あったでしょうが、どんな反響でしたか、岡田君一つ」

岡「さっきも御話ししたように下元先生の独身青年募集に道が拓かれた時は全くごこうがさしたようでした、早速県庁へ行きまして試験を受けたのですが三人合格するのに応募者三十三名でした、一人々々口頭試問があるのですが順々呼出されて中には十五分も室から出て来ないのがあるのに、僕は二分か三分、何か訊かれずぐ室を出ました、ああ、これは落第だな……とすっかり悲観しちまいました、がそれから十日もたないうち合格の通知が来ました、夢の様でした」

佐藤「熊本県は、たしか十二名採用だったと思いますが応募者は五十人以上でした、僕は第一回では不合格でした、どう云う点が、いけないのか勿論わかりません、応募資格というのは農家の二三男、年齢は十八才以上二十五才迄となって居りますので年齢超過で心配しましたが第二回にぐっとパスしました」

アヴィーゾ

京野四郎さんの世話による

農務省配給の

トラトール・カゼ印

（ケロゼーネ使用）

が又下附されることになりました。

○支拂は四ヶ年々賦です

購入希望者は

來る五月十二日（土）午前八時より

オ・バステ・セ 發行所 小林會計事務所

へおいで下さい

京野四郎さんが聖市より出張し

皆さんと直接商談いたします。

Trator "Caze"

鳥居「僕の実家は農業ですが、今度の応募資格農家の二、三男というのでも、商家の二、三男と、どうちがうか、誰にも判らぬ問題だと思います。僕は幸い合格したからよいようなものの、それでも県庁へは三度通いました。農村救済という意味が多分に今度の詮衡の主旨になって居ると思はれます」

岡田「開拓精神さえあれば誰れでも資格があるように思われます」

司「勿論そうだけれど、実際には、やはり農家出身の方が成績はいいようです。で、大体各県とも応募人員の一割方が合格しているのですね。熊本県の詮衡経路は、どんな工合ですか」

招岡「熊本県では産業開發隊、これは、まア青年団見たいなもので農家の二、三男が主体となっています。この中、第一、第二、第三と班を分け、今度の渡伯試験を受けましたが、いよ〳〵合格する迄に開発隊の推薦があり、町村長の推薦で、県庁へ参ります。ここで大体きまるのですが最後は海外協会で決定するのだそうです」

司「試験を受けてから渡航までに何日位かかりましたか」

中村「私の処早かったです、二十何日」

平木「鳥取県では三十日未満」

鳥居「僕の方は二週間位だったかな」

司「大体早いんですね、で渡伯を思い立って以来実現する迄にどの位金をつかって居ますか」

鳥居「僕は七、八万円使ったかな」

佐藤「僕は五、六万円だったと思ふ」

平木「鳥取県では一人に二万円補助があります」

招岡「目的地へ達する迄の小使として外に五〇ドル持参するようにとの事でした」

中村「出来るだけ倹約しても、準備中の車馬賃、服装費など相当かかりました」

岡田「僕も七、八万でしたが、その中には友人親戚などを呼んで別れをしたりする費用も含んで居ます」

司「その外、独立后の資本というようなものは用意しませんか」

○「とても、たんな金はありません」

△「鳥居君は沢山もって来た相じゃないか」

鳥居「親父から分け前をもらって来たがそんな連中船の中で盛んに飲みよったぞ」

司「いくら程ですか、何、借りに行きわせんから心配せんでもいいよ」(笑)

鳥居「でも、その金はコツヤへ預って四年先きまで手をつけることはできんです」

以下次号

フクモリの大奉仕を
……御利用下さい……

カーマ・パテンテ

定評のあるカーマです
五月中にお買上げの方には
一〇%デスコント

特上靈柩棺

ツッパンでお求めになるより
安くて上等

やすり

古やすり再生いたします
長さ一インチ一針五百、(一本二〇針見当)
新品と同じになります
一度おためし下さい

シネマ館上
福森家具製作所

Fabrica de Mobilia Fukumori

ユービン料金値上げ

五月一日より

ユービン料金 Franqueamento が上ったことはご存知でしょうが念の為め、普通知っておく必要のあるものを左記のようにならべて見ました。

1. ブラジル国内 封書 二〇グラマ迄 二〇〇 五〇
   二〇グラマ増す毎に 一〇〇 五〇
2. 国内 書きとめ 二〇〇 七〇 五〇
3. 国内エキスプレッソ 一一〇 五〇
4. 書留にして速達 一七〇 五〇
5. 国内 開き封(印刷物など) 二〇〇
6. 国内 印刷物 五〇グラマ迄 一〇〇
7. 日本行 普通便封書 二〇〇 七〇〇
   二〇〇を増す毎に 四〇〇
8. 日本行 飛行便 五グラマ迄 一一〇 五〇
   五グラムを増す毎 五〇 五〇
9. 国内新聞 五〇〇迄 〇・〇四

新聞だけは値上げにならないようです。

今まで安すぎると思っていたら一度にどっと上昇して、あちらでもこちらでも目をはちくり、手紙は文明の母、いくら費用がかゝってもこれ位かりはやめるわけには、いかず。無ゆえで出すと、先では倍額とられますッ。御要心！

聯青主催　辯論大会原稿

回等
農村生活に、もっと心のうるほいを

サウデ　湯原温子

住宅をとりまく鶏舎の群、養蚕小屋のサツペ家根、そして軒下まで生い繁った丈なすコロニヨンの草むら。所へ出かけるにもコロニヨンの藤いかぶさった細々とした道をカロッサやトラトールでゴトゴトとやって参ります。

皆さんこれが私達の郷土バストスに最も多く見受けられる農村風景でございます。私はこうした環境の中に生れ、生長して参りましたが、つい数年前迄は自分を取りまく周囲の此の風景にあえて不満もなく、之れが農村の本然の姿として生活して参りました。もし私が一つのチヤンスにめぐまれなかったら、此のバストスの風景の片隅に、一農家の娘として何の刺戦もなく、何等の慰安もなく、十年一日の如く毎日牧牧として家業に従ったことでしよう。チヤンスとは何か？それは約三年前のアシスへの旅に外ありません。父につれられて行ったアシス！　あの所に私は少しも心引かれるものはありませんでした。所が一歩足をドイツ人の植民地にふみ入れた時の私の驚きと、（次頁へ

譲り店

アダマンチーナ市

自抜きの場所

洋品店　靴、カミーザ・帽子
ネクタイ　等の高級品、

現在盛業中、一ヶ月の賣上百コントス以上あり。生型の都合上、商品其他居抜きのままゆづります

委細御面談・好條件提供します左記へお訪ね下さい

阿部二郎
C・P　二六

アダマンチーナで有名なコスモス寫真館で見習生を募集しています
十七才以上二十才迄
徴兵にかかる人はチーロ丈ケーラがあるから大変便利です
希望者は至急　阿部二郎方まで

一週放言（勝手な熱をあげる処）

野球ルール速製

五月一日マリリア球場でパラナ軍とノロエステ軍の決勝戦2×2で遂に補回戰に入り十一回の裏でパラナ軍の走者が壘にいて、ノ軍投手のスキをねらって本ルイにすべり込みセーフとなって愛に決定的な一点を稼ぐで優勝したが、この試合の回パラナ軍攻撃の時一寸おかしい事が起った。多分二死後パ軍走者ルイが居り続く打者ニストライクで余命いくばくもないのだが、次の投球が打者の腹にあたった。此の打者左利きで痛っといって少しかがんだ拍子にバットを振ったように見えたので球審はアウトと宣言した。すると三ルイ側のパラナ軍はボールは腹にあたったからデッドボールだと抗議し壘審にたしかめると死球だというので打者は一壘へ行きかける。ノロエステは之はたまらん、たとえ二死後こいへど走者が二人も出ては、とんでもない事になると思ったのだろう。早速ノ軍監督から物申す。一壘側からは見ると打者はたしかに振っている。アウトだ見物も応援もワーワー喊声をあげるものだから球審あがってしまい、壘審三名を呼びよせて協議に入り、速製野球ルールを新案した。曰く「ヤリナオシ」パラナも仕方なく応諾して投手やきら一發放ますと打者空ラ振りして三振アウトとなり、あっけなく交替となる。最后に一点稼いで文句なくパラナが勝ったらいいようなものの反対にまけたら、やりきれまい。

一旦審判を下したものを「ヤリナホス」といふルールがあるものかどうか、きいた事はない。田舎の草野球ならいざ知らず、進退両難の場合は新案ルール速製をやってもいいものか教えてもらいたいものだ。之は前回の時走者妨害事件でノ軍退場の騒動が起ったので、又もやそういう不詳事を起し度くなかったので、マア（）という腹になったのだろうが、抗議すれば、やりナオシ、きかれねば退場、そんなスポーツなら、やめた方がよろしいと思うんだが、どんなものでっしゃろ。（Q子）

一言放言

母の日

（五月十三日）

母の日の母美しき事誇る　大納言
母の日や吾れを待ちつつ逝きし日　奇峯
母の日や母なき子等にボロ焼く　和枝
母の日や古き寫真の母のつぶ　秋扇

仙人掌同人作

ミリヨ脱粒は
親切で確実で仕事のはやい
野沢一衛 方へ
御用命下さい

Debulha de Milho

夜分も日曜も休みなしです。アクムラドール充電はサーヴイス致します

プロリダ街 ペイショット 古沢ジュース屋さんとなり ノヴワ

Vende-se 1 Predio

賣り家

シネマ館の向い
木造二階建（階上3室、下は7室）
格安に賣ります故、希望の方は中をごらん下さい、鍵は喜多さんにあります。

喜多商店 又は
加藤与太郎氏迄
御相談下さい

ベンロウ続き

三嘆！それは彼ら農家の姿であり、彼ら農人の悠々たる生活振りについてであります。その時私の感じた事は、よし象はまづしくとも農村生活はやり方いかんによってはもっと〳〵美しく心豊かな日々が送れるのではないかということでした。私達はお金もうけ以外にも今少し日常の生活に留意しなくてはならないのではないでしょうか。家を取りまく色とり〳〵の花！　キンタルには枝もたわわに実った果物！　広々としたパストには緑の玉絨毯を敷きつめたような若草、その牧にのどかに草を喰む牛の群、窓につるしたカーテンにたわむれるそよ風、その風にのってもれてくるギターの音、唄う人！　それは私の眺めた驚きと羨望にたえない、さる日曜日のドイツ人農村の風景でございます。それはあたかも絵画を名画をでも眺めるような心うたれる美しい農家の姿！　これを前者と比較致します時、同じ農村農家とはいえ、例へばバラさイバラの花にも比べ得べく余りにも其のへだたりの大きいのに一驚した次第でございます。皆さん！　私達日本人農家の勤勉と優勝性は此の国でも他国人の絶讃の的であります。然しひるがえって考えます時果して私達日本人のお百姓が他国人より心豊かな満ち足りた日々（次頁へ）

中學校問題を　私はこんな風に考える

勝海舟の言葉に「問題が起きた時まづ立場を替えて考えよ」と申されて居ます。立場を替えると云うのは、例へば途上で前を行く美人があるとしますが、顔を見ようと、急いで追越し振返って拝見したら鼻ぺちゃだったり、目やにが、くっついて居てがっかりするような事があります。又前から見ると中々美人だが、行きすぎて振り返ったら大猫背、又横目で見たらシヤクシ顔だったなどという事もあります。

一方からのみ見て断定する事は、むづかしいですから真の美人と折紙をつけるには美人コンクールの審査の様に、お尻とお乳だけかくした裸体にして前後左右から、お目に教養の点まで見て「これこそ真の美人」と万人の納得する折紙をつけねばなりますまい。

今、中学校問題を中心に前後左右から其人の立場になって考えて見ましょう。吾々植民者側としては、各人のおひ分が良く判ります。約束が違うといって権利を主張するのも一理であり、レンガが一つも運ばんと云って不誠意を攻めるのも一理ですが、又学校側に自分がうち、自ら経営者となって此の問題を考えると、越中褌と弔鼓は前から、はづれるの例えどうり、始めは約束を実行するつもりであったが、移転者続出で収入財源に違算を生じ、教員其他に過支分はなかったか。学校経営者は一面宗教家であるから、味方たのむ、連日会や之れに附随する極氏者等を故意にだます様な事をするかどうか？　又側面から督学官になったつもりで此問題を見たりすれば、すべての人が納得の行く解決案がすぐ出来るのではなかろうか。

建設は難く破壊は易い、物事を建設的に考える事、そして人を非難する前に、その人のやっている事業或は団体運営などに一考を加ほしたい。

中学校に対しては、校長諸先生は、もと上り市長さん市議さん、諸団体の役員等あらゆる方面の人達が、物心両面から相當の犠牲を払って之を支持しているのですから、お互いに之を感謝する心で励まし合うならば、もっともっと住みよい明朗なパストスになるんじゃないかと思ふのですがどうでしょうか？（グロリア生）

菊

美しく老いたきべ菊の花　水仙子
菊　語りて　吾れに解らぬ絵が一つ　春歩
そこここに　倒れ菊あり　起こーやる　南天子

皆さん！世はまさに原子力時代です……

一家の主婦をガスホゴンの設備によって解放してあげましょう

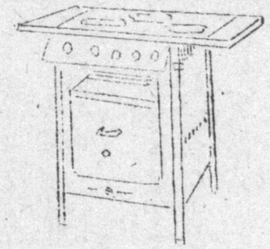
このたび私共がスペルガスの代理人を引受けましてから、はや十台以上皆様に、お買上げいただきましたが、何れも大好評、喜ばれて居ります

SPEL

スペル・ガスの特長！ 普通のガスと どうちがうか

普通のガスは十キロ入り百六十銭
一本で二十日乃至二十五日位しか保たないといわれ
スペルガスは十三キロ入り百八十銭で
四十日以上使った記録があります（四人家族）
其他何れも三十日を越えて居ります

スペルガスは鍋釜を決してよごしません。火が強く操作簡単、詰まる心配がありません。



朝夕台所に於ける主婦の時間半減。時は金なり。
現金の外、十五ヶ月の長期プレスタソン

詳細・実物 御一らん 下さい

ポスト・バンディテンテ
オフィシーナ・アベ

ベンロンつづき

を送って居るでありましょうか？ 仕事、只仕事のみに追われて其の日を送る。之が私達農民の日常でございます。そこには何の慰安もなく、唯あるものは、お金をもうけ度い早く成金になりたいという慾望！ 皆さん！ 之れは、ひとりバストスのみならず、広く日本人コロニアに共通の氣風でございます。

最近私達のお友達が次々と都会にあこがれ農村を捨て去りつつあります。実に心淋しいきわみでございます。然し此の人達が農村をいとい、都会生活にあこがれるに至った原因の一部には、おそらく私達の農村生活が無味乾燥、あたかも砂をかむような状態が彼等をして、農村を捨て都会に走らしめたのでは、ないでしょうか？ 此の尊かるべき農と、之私達の職業の在り方に今こそ人々は一考、再考すべき時ではないでしょうか？

農村生活にもっとうるほいを！ 私達は自己の職業に精進しつつも、もっとうるおいある日常の生活をいとなむ可きではないでしょうか？ 例へば花壇を作り草木の花に心を慰むとか せめて夜分でも一家揃って音楽に楽しむとか、自分の事を申して恐れ入りますが、私はあのドイツ人農家の花壇にいたく心を打たれて、父に願って花の種子や苗を集めてもらいました。朝の寸暇をさいて母や兄弟達と共に行う手入に、草木は、すくすくと育ち、やがて紅、黄、紫、いろとりどりの花をひらきます。今朝は朝顔が二つ咲いた。あすはきっと五輪は咲くだろう、薔薇は散りかけたが紅と白が満開になった、あれが散る頃は、うす桃色の分が咲くだろう。そして今日は暇を見て、忘れずに多リアの草木をしなくては、それからおばアちゃん、石竹の種子をとっておいて頂戴！ A子ちゃんが内の花がきれいだから是非タネをとって去っていらっしゃったから……とまず朝食の卓でこうしたお話の花が咲きます。父はバラの、母はダリアの、そして私は石竹と朝顔の、各自が自分の手がけた花の美しさ、立派さに自慢します。私の家では多忙な毎日の日課も先ず、このように早朝の団欒から始まります。此のように心にゆとりがあれば、如何に仕事が忙しくとも、例へお金がなくとも毎日を心楽しく暮す事が出来るのでございます。皆さん！ 之れは貧弱な私の家庭の一例にすぎませんが、人々が各自慰安の種を求めて研究

秋しるすならば、その方法は多々あることと存じます。前にも述べました如く、音楽をとり入れるとか、要は各自が已れの職業に精励すると共に、更に日々心の慰安の道を求め、個々に最も適した道を選び行いますならば私達はもっと楽しく我がバストスをもっと美しき郷とすることができるのではないでしょうか？住宅をとりかこむ色とりどりの花、枝もたわわに実ったランジヤの、さてはミカンの或は紅に熟した柿の実に、夕陽の赤々と照り映ゆる時鶏舎からは夕刻を告ける雄鶏ののどかな声、屋内では、はや夕飯の卓に一家揃って楽しいお食事、蓄音器はシューベルトのゆかしいセレナーデをかなでます。食卓に香うバラの匂い、皆さん！これこそ、お百姓のパラダイスではありませんか。そこには百姓をいとう（人の農夫もなく、都会にあこがれる一人の乙女もありますまい！

皆さん！農村生活に、もっと心のうるおいを！私は かく提唱して此の第ある壇を降るものでございます。御清聴ありがとうございました。

評＝論旨もよし、文の内容も無難です。が、これを辯論として聴者を前に訴へるとなると、幾分力が弱くなるのは主張よりも叙情叙景の方が勝っているからだと思います。現に壇上に於ける筆者の態度、声量、いずれも好感がもてるのですが、たたみかけてくる迫力にかけて居るようでした。よも文章として再ぎんみする時、多くの人の共感をよぶものと思はれます。（糸青）

連日・代議員會

（報告書）

五月四日十一時より池田食堂に於て真下ドクター送別会を行い、ドクターに贈る記念撮影あり、後代議員會を開き、左の事項につき協議並に決定を見た。

一、病院の件

平松、伊波ドトール辞意を申出て居るので、止むなく辞職を認め、早急に後任医師を見つけること。

一、聯日会登録の件

具体案が出来たので文化協会登録手続中。ドトール一井田に相談。ジレトリアは日系に依って登録することとなる（崎田氏説明）

一、入植祭の件　時節柄質素に行う。

予定は七月七、八日の二日間とす。但し市会で玉子祭をやる場合は七月十日の指定日を考慮す。

一、會館の件

会館建設の土地の件が解決せぬ為め遅引しているが解決次第着手の予定。

一、バストス振興会社の件

（谷口、榎、氏提案）

バストス更生案として重視せらるる土地問題を処理する一策として、バストスに振興会社を作り度いという提案である。日早急を要するので委員を任命し臨時基礎工作を為さしめる。委員は、谷口、榎、上西、藤原、岩田、吉田、崎田、本田、重道の諸氏。

本案は、既にサンパウロ方面でも話題のある、ブラジル振興会社の事業にタイアップ又は附随して資金の融通を仰ぐものであるが、単なる名義のみのものでなく、バストス在住者からも資金をつのり、堅実な土地斡旋の働き仕事をする実際の業績を挙げる組織たることを目標とする。

御礼

一金五百釓也

四月廿七日御子息福二様御葬儀の節、僅かばかりの御手傳をさせていただきました処、その代償のしるしにとて右金額を当団へ御寄贈下さいました、ありがたく御礼申上げます

一九五六年五月二日

グロリアイ女子青年団

矢野武信様

Sabão
ALBATROZ
Lava Melhor

日に日に賣れ行きの多い
サボン アルバトロース 印
品質がよいからでございます
手があれず
よごれのよくおちる
サボンですから
皆さんから
すばらしい評判を
いただいております。
バストス各商店にて

Continuação. (nº 2) SEM FAMILIA -Hector Malot-

Despi-me depressa e deitei-me. Mas enquanto a dormir, isso era diferente. No fim dum certo ponto, não poderia dizer quanto, senti q que se aproximavam da minha cama. Pelos passos vagarosos, arrastados e pesados percebi imediatamente que não era a mãe Barberin.

Um halito quente roçou-se pelos cabelos.

- Já dormes? perguntou uma voz abafada. Não pude responder, porque estas palavras terriveis " comigo te has de haver" soavam ainda aos meus ouvidos.

- Já está a dormir, disse a mãe Barberin; assim que se deita, adormece logo, é o costume; podes falar sem receio que êle te ouça.

- O teu processo, como vai? perguntou a mãe Barberin.

- Perdido! os juizes decidiram que era minha a culpa porque não devia achar-se debaixo dos andaimes e que o empreiteiro não me devia.

Nisto deu um murro na mesa e pôs-se a rogar pragas sem dizer uma só palavra sensata.

- O processo perdido, tornou ele; o nosso dinheiro perdido, eu aleijado, a miseria; e aqui! Como se isto não fosse bastante, encontro uma criança em casa. Explicar-me-ás porque não fizeste como eu te disse que fizesses? - Porque não pude.

- Não o pudeste levar ao Hospicio dos Engeitados?

- Não se abandona assim uma criança que se criou com o seu leite e de quem se gosta. - Não era teu filho. - Enfim quando eu queria fazer o que tu pedias, caiu ele doente. - Que idade tem ele agora?

- Oito anos. - Pois bem! irá aos oito anos para onde devia ter ido ha mais tempo, e isso não lhe será mais agradavel.

- Ah! Jeronimo, não fazes isso. - Não faço isso! Quem mo impedirá? Pensas que podemos tê-lo sempre?

Houve um momento de silencio e eu pude respirar; a comoção apertou-me a garganta a ponto de me sufocar. Dai a poco a mãe Barberin continuou: - E se os pais tornam a pedir, o que diras tu?

- Os pais! Ele tem lá os pais? Se os tivesse, já o teriam procurado, e de oito anos para cá, tinham-no achado com certeza. Ah'. fiz uma bela asneira em julgar que tinha pais, que um dia o viessem buscar e que nos pagassem o trabalho que tivessemos tido para o criar. Não passei de um parvo, de um imbecil. Por ele estar embrulhado em roupas cheias de rendas não queriam isso dizer que os pais o procurassem. E quem sabe, se eles já não morreram!

- E se não morreram? Se um dia no-lo vierem pedir? Tenho um pressentimento que hão de vir. - Como as mulheres são teimosas!

- Mas enfim se vierem? - E então? mandamo-los aos hospicios. Mas basta de conversa. Tudo isto me aborrece. Amahã leva-lo-ei ao mairo. Esta noite vou fazer uma visita ao Francisco. Daqui a uma hora cá estarei. A porta abriu-se e tornou-se a fechar. Tinha-se ido embora.

Então sentando-me depressa na cama, comecei a chamar a mãe Barberin. - Ah! mamã. Ela veio logo ao pé de mim. - Deixas me ir para o hospicio? - Não meu querido Remigio, não. Beijou-me com ternura, apertando-me nos braços. Esta caricia reanimou-me e parei de chorar.

- Então não estavas a dormir? perguntou-me ela baixinho.

- Não tenho culpa. - Não ralho contigo; ouviste então tudo o que o Jeronimo disse? - Ouvi; tu não es a minha mamã, mas ele não é meu pe. A mãe Barberin pareceu não reparar nisso.

- Eu devia talvez, disse ela, ter-te feito conhecer a verdade, mas tu eras tanto para mim como me filho que eu não podia dizer-te sem razão, que não era a tua verdadeira mãe! A tua mãe pobre criancinha, ouviste-o ninguem a conhece. Está viva, não está? Nada se sabe. Uma manhã, em Paris, quando o Jeronimo ia para o trabalho e passava por uma rua chamada a avenida de Breteuil, que é muito larga e cheia de arvores, ouviu os gritos de uma criança. Pareciam vir do vão da porta de um jardim. Era em fevereiro; ainda não amanhecera. O Jeronimo aproximou-se da porta e viu uma criança deitada no chão. Olhando à roda para chamar alguem, viu um homem sair de tras de uma grande arvore e fugir. Com certeza aquele homem tinha-se escondido ali para ver se achariam a criança que ele mesmo tinha colocado no vão da porta. E ai o Jeronimo bastante atrapalhado, poque a criança berrava com toda a forca, como se compreendesse que lhe tinha chegado um socorro, e que era preciso não o deixar fugir.

(continua):-

Vende-se Trator

トラクター

フォールド 中古品

最近レオルマ濟み

アラード・カルピデーラ附き

至急賣り度し

支払方法御相談に応じます

御希望の方は

バストス産業組合事務所

松本・まで

Casa Cristal

結婚シーズンとなりました

お祝いのプレゼントには

どなたにも喜ばれる家庭必需品

安くて良い品を提供する

阪東商店

を御利用下さい

美しい茶道具セット各種

コーヒー用セット

レフレスコ用ガラス器

サラダ用セットいろ〳〵

菓子器・果物入・サシミ皿

クリスタール高級花びん

寫真立、おきもの……

贈って喜ばれ使って重宝

セト物類 ガラス器、

アルミ製品・台所用品

安くて、強くて、美しい

特級品

カーザ

クリスタール

吾々に馴染深いブラジルの薬草 5

丸 日本名ニンニク大蒜 百合科

学名 Allium sativum L. Liliaceae

var. vivipaarum Regel

畑地栽培食用にせられるアリョの事で此の鱗茎乾燥が生薬で言う大蒜(タイサン)であります。

含有成分はチオ乳酸・グルコミナール・アルギ・キナ・フィケン・スフルトーズ・精油・硫化アリール等で、此の硫黄を含む精油は強い殺菌力を持って居るので腸内の殺菌や異状醗酵や寄生虫の駆除に用いられる。

用量は生のまま すりつぶして一回5gを必ず オブラートに包んでのむ。

民間薬としては不眠症・結核・肋膜・感冒薬として卸して飲んだり焼いて食べる。

又胃けいれんで痛むときは、すり卸したものと小麦粉をねり、それを温めて布に五六分の厚さにぬり、痛む所にはる。ざめて来たら暖め、それをくりかえして居る中に治る。痛みの起る原因が色々あるから必ず治ると断言はできかねるが大低なおる。医者や薬局に近ければ注射一本でケロリと痛みは去るが、人里はなれた処、山に居る人夜間など突然した場合の応急処理としてゞ得てよいことと思う。

日本から北米蘇出の大部は乾燥トマトソースの調香料に使う。が上海香港新嘉坡等に出すものは食料に使はれるものが多い。外貨をかせぐ作物の一です。

(筆者は 小野山菱竹老 つづく)

新薬として アリサイン、アルス、オゼロ等が薬局にあります

しょうが

新生姜一つ振られて雨期ちる

古生姜くねりくねりと擦られけり

修水

北眠

千田市太郎さんの場合

先月、千田さんが、不意に訪ねて来た。臣雄盛んなりし頃、バストスのリーダーで、吾々非国民には、顔を合わせても、物も言わなかったが、今度は「やてしばらく」といって入って来た。「あの頃は思想問題の為めに対立して、物も云はず、すまなかった」と堂々と、その非を詫びている。昔からの友人で、ああいう事件さえなければ、平穏だった筈の間柄である。「お互に年をとったなァ」といって涙ぐむと、こちらもついホロリとなる、すんだことには一切ふれまいと約束した。お互にあらたまって過去にふれると、どうしても和解はできない。千田さんの場合のように「やて しばらく」でよいのだと思う時が解決するといったのはほんとうだった。(寄音)

前頁(9)の蔵文 NO. 2 は NO. 2 の誤植でした。

新入荷到着案内

エンシャーダ(ツアスカラ)

チンタ(バイル・ロイド)

アルカッチ(アレマン)

UKITA カバディラ

マッシャード(コルネタ印)

SA リーマ

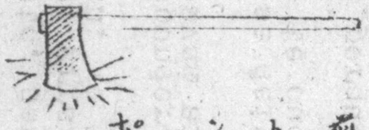
電気アイロン

CASA アルコディプア(日本品)

カンキリ(ボルボレッタ印)

ネズミ取り

ランプ各種



前ポント

浮田金物店